

アカウミガメ追跡

2024年8月のニュース
チームの考え



ターナー・トマシェヴィッツ博士 - ウミガメ生物学者

すごい! この2024年放流のカメは、もう2か月近くも追跡を続けています。これまではみんな北へ、さらには北東へ向かっていましたが、今はほとんどのカメが止まっているようで、南へ向きを変え、その後再び北へ戻っています。何かが変わったようです! ここからが面白いところです!

クラウダー博士 - 海洋学者

最近まで、多くのカメは北東方向に進んでいました。現在は南に戻り、さらには西方向にも回っているようです。非常に興味深いです。ラニーニャが近づいていますが、従来のデータ期間(1997~2013年)と比べると、2014年以降は海況が異なります。



ポロヴィナ博士 - 海洋学者

はい、アカウミガメの多くは北方への移動を止め、数日間非常にゆっくりと移動しているようです。これは、アカウミガメが前線で餌を探している可能性を示唆しています。そして、現在、アカウミガメの一部は再び北方へ移動しています。



マーク・ライス氏 - ウミガメ生物学者

おっしゃる通りです...彼らは同じエリアをうろろ歩き回り、少し南に向きを変え始めています...ほとんどのウミガメは(少なくとも当面は)北への移動を止めています。私もブログに同じことを投稿しました。特別な「Splash10」送信機が付いた3頭のウミガメの温度と水深のグラフも掲載しました。



ブリスコー博士 - 海洋学者

私たちは、2023年のカメと比べて、2024年もカメが北へ移動するかどうか注意深く追跡し続けています。お楽しみに。今後数か月でラニーニャ現象がさらに進行すると予想され、28頭のカメすべてがまだ送信を続けているため、カメたちが私たちに多くのことを伝えてくれることを期待しています。



ジョージ・バラーズ氏 - ウミガメ生物学者

地図からウミガメの動きがわかりますが、なぜその行動をしているのかを「知っている」のはウミガメ自身だけです。深度記録計を装着した3頭のウミガメ(ペリク、モアナカイ、エナリー)のデータを評価することで、その理由についてより深い洞察が得られるかもしれません。

